

2018年度協定留学プログラム
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	国際社会科学部 国際社会科学科 2年（留学年次） 3年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 イーストアングリア大学 経済学部 経済学科
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2018年 9月 25日 ～ 2019年 5月 15日 出国日 2018年 9月 18日 最終帰国日 2019年 6月 16日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計1,500字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく仔細な記述をお願いします。

1. 留学全般について

（1）留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

留学は、終わってみれば自分が思っていたよりも遥かに厳しいものでした。しかし、厳しかったということは自分にとって、とても良い影響になると考えています。

自分が内側から成長できたことが一番大きいと考えています。まず、課題を解決する能力は大幅に向上したと自負しています。いろいろな問題にやはり留学中直面し、使える手立てを全て使って解決していくという、当たり前のように簡単にはできないことをなんどもこなすことができ、大きな成長につながったと思います。コミュニケーション能力は必然的に伸びたと思われます。主張しないといけない文化で黙り込むのは留学を捨てる行為だと学び、外向的ではないにしても自分のベストは尽くせたのではないかと思います。

問題だらけで始まった留学が、こうして無事全ての単位を獲得し、問題なく終わったことに今は感動しています。この経験はきっと、将来自分の芯の一部になるに違いないと思っています。

（2）留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

留学前にシラバスをよく読むことと、固定観念にとらわれず、色々な科目を、時間をかけて探すことを心がければよかったかなと思います。私は一つだけ、自分の可能な範囲を超えた科目を取ってしまい、かなり苦労しました（もちろん素晴らしい経験であったことに変わりはないのですが）。自分を最大限にプッシュしなければならないような留学ではなく、無理のない、勉強面でストレスフリーな留学にしたいと考えているのであれば、やはり下準備を面倒がらずしっかりしておくべきだと強く感じました。

2. 留学先大学について

(1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

一つ一つ丁寧に教えてはくれるものの、やはり進行スピードは早く、自分でコツコツと復習することが大切だと痛感しました。セミナーではほとんど全ての授業で高難易度の問題が課され、しかも予習は必須なので、わからない点があるとすぐにおいていかれてしまう印象があります。しかし、教授たちはとてもオープンで、わからないところを聞けばすぐに返してくれました。それが直接であってもメール経由であっても、かなり早く丁寧に教えてくれました。総合的に、とても生徒に対して丁寧であると言えます。

(2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

私のキャンパスは田舎にあったせいか、かなり敷地面積が広く、バスの路線の一部になる程です。緑に囲まれながらもキャンパスはモダンな建築スタイルの建物が並んでいて、とても趣があると思いました。イギリスや欧州の伝統的建築はあまり見られませんでした。とてもクリーンな建物ばかりで、勉強に集中しやすい環境でした。学校内にバーや夜にはクラブがあることには大変驚きました。図書館もかなり広く、5 回建の建物で、本や論文のストックや種類に困ることはありませんでした。

レストランもあるにはあるのですが、少し価格が高く、スペースもあまり広いとは言えません。ガラス張りの建物の1階に位置しており、昼時はいつも混んでいました。

(3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

自由申し込みで、アカデミックな英語という点を重視した四技能+発音を特訓するサポートコースのようなものが、ノンネイティブの学生に用意されていました。費用は完全に無料でしたが、申し込みが過多の場合、抽選を行うとの旨が記されていました。時間数は1科目1時間×6週で、全てで5科目でした。実際にアカデミックな論文や新聞記事を読む際のテクニックや、講義などでどう英語を聞き取るか、アカデミックにふさわしい英語などを学ぶプログラムが構成されていました。

生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

留学生向けのイベントとしては、ウェルカムパーティーのほか、街で何を買えるかなどを実際に赴いて教えてくれるツアーのようなものもありました。これらの情報はUEAのアプリにスケジュールが出されるので、インストールすることをお勧めします。

留学センターに当たるところが、不定期で、年に2回ほどパーティーを主催していました。その括りは同じ学部だったり、日本人だったりと言った感じです。

資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

特に該当する情報はありませんでした。

(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。

治安はものすごく良いと言えます。週に何回か救急車のサイレンが聞こえるだけで、事件が起こったりするのはごく稀でした。ほのぼのと時間が流れる良いところだと思います。

(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。

イギリス国内の生徒の満足度ナンバーワンというだけあって、生徒をサポートする環境は素晴らしかったと思います。僕が留学前のアクシデントを抱えていた時も、メールをすると迅速に解決策を提示してくれました。

(6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)

3. 宿舎について

(1) 種類

大学の寮 / アパート / ホームステイ / その他 ()

(2) 家賃

月額 (現地通貨) 約 £600 、(日本円) 約 81,400 円

(3) 食事

食事付き (朝・昼・夕) / 自炊 / その他 ()

(4) 大学までの交通手段、所要時間

徒歩 / 自転車 / バス / 地下鉄 / その他 ()、計 5 分

(5) 感想、良かった点・悪かった点

建物自体はとても綺麗でした。部屋も広すぎず狭すぎずと言った広さで良かったと思います。ただ、10人強でキッチンを共有しなければならないので、例えば一つしかないシンクを、終わるまで待たなければならないなど、そのあたりは少し不便でした。ただ、絶対にコミュニケーションは生まれるので、語学面では成長を促してくれる環境であると言えます。

4. 費用について

(1) 学 費

(現地通貨) 約 £9447.6 、(日本円) 約 1,281,800 円 (学習院と同じ額を払いました)

(2) 渡航方法と金額

飛行機／船舶／その他 ()、(日本円) 約 204,730 円

(3) 生活費

(現地通貨) 月額・年額 約 £400 、(日本円) 約 54,000 円

※ 宿舎費を含めた金額を記入してください。

(4) 費用の持参方法

国際キャッシュカード／クレジットカード／国際ブランドプリペイドカード
／現金／その他 (デビットカード)

⇒ その方法についての感想、良かった点・悪かった点

デビットカードからはお金を引き出すことができたので、気軽な買い物に現金を使い
たち時などの為に ATM から引き出すことができ非常に便利でした。イギリスはクレジ
ットカードの環境が発達していたので、殆どの買い物をカードで済ませました。カード
での決済はとても楽なので、これをお勧めします。

(5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

ほとんどを食事代などの生活費に費やしました。その他の使い道としては、本を購入する
などで、あとほんの少しのお土産代として使用させていただきました。奨学金は本当に私の
留学にとって無くてはならない支援だったので、本当に心から感謝しています。

5. 保険について

(1) 保険会社名

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

(2) 保険料

190,470 円

(3) 加入した保険の種類、内容

傷害死亡・傷害後遺傷害・疫病死亡・治療救援・賠償責任 (長期)・歯科治療費用・手荷物遅
延・航空機遅延

(4) 感想、良かった点・悪かった点

私は無傷で帰ることができたので特に保険が発動する条件を満たしたことはありませんで
した。なので、感想と言えるかどうかわかりませんが、この保険は文字だけ見るととても安心
できるものなのかなと思います。

6. 荷物について

(1) 荷物の送付方法

手荷物／船便／SAL 便／航空便／海外宅配便／その他 ()

(2) 持って行って良かったと思う物

日本のお菓子、調味料、本、自分が履修しようと考えているものに関連した参考書、英語の参考書

(3) 持って行く必要が無かったと思う物

韓国海苔：好きだったので持って行ったが、合う料理が特に無く湿気ってしまった。
多すぎるサプリメント：ただ圧迫するだけになってしまった。

(4) 持って行けば良かったと思う物

日本の文房具（定規やシャープペンシルの芯）
パスタソース

7. 平日および週末の平均的な過ごし方

(1) 平日

授業が朝からある日は、授業に行き、昼食をとり、買い物をしに街に出かけ、その後復習や課題に取り組み、フラットメイトとポーカーを月木で遊び、その他諸々の就寝の準備をし、翌日の授業の準備をして就寝というのが一般的です。不定期で料理やお皿洗いなどは毎日しなければならないので、忙しい時のタイムマネジメントは厳しかった覚えがあります。また、不定期で洗濯をしなければならない上、これが2時間ほどかかる為、スケジュールがタイトになってしまうことがあります。

(2) 週末

大体の日はゆっくりしていました。動画を視聴したり日本にいる友人と会話したりするなどで、体力を回復させていました。

休日しかずっと部屋や図書館で作業できる日はなかったので、テスト前やレポートなどには休日を使ってかなりハードに取り組んだり、対策をしていました。

8. 後輩へのアドバイス等

自分はホームシックなんてならない、こんなことはなり得ない、と書いていても、予想もなかったことが起こり、実際ホームシックになるのです。なので、自分はならない、なつてはならないと言った脅迫概念じみたことを思わず、また、ホームシックは恥ずかしくないと言ったことを念頭に入れると、スタートで帰国したいなどと言ったことを考えなくなると思います。

わからないことがあったら、溜め込まず聞きましょう。これには勇気がいるかもしれませんが、貴方の留学生活すべてが無駄に終わる、または留学に支障が残るなどと言った大惨事を避けることができます。わからないこと、やらなければいけないことが山積するだろうと思いません。頑張ってその惨事を回避して、より良い留学にしてください。

日本人とつるむのは良くないと言いますし、それは本当だと思います。しかし、週に一回合う程度の日本人の知り合いはいた方が良くと思いました。私は、つるんではいけないという意識や、内輪の形成は自らの留学体験を損ねるという考えから、気づけば外国人の友人の方が日本人の友人よりも多いという状態になっていました。母国語でコミュニケーションが気軽に取

れると言った心理的安心感はかなり大きなものがあると気付かされました。なので、日本人との関わりを完全にシャットアウトするのではなく、人脈の形成も兼ねて、数人の近しい、もしくは話せる日本人と知り合っておくことは有効だと考えています。

9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。